



1. JALオリジナルUCOボトル内には特製の金網がセットされ、食材カスの混入を防ぐ。2. 4. すてる油リサイクルBOX内にも金網をセット。3. イオンフードスタイル鴨居店での回収トライアル。安部(一番右)と、喜多(右から3人目)。

回収できる油	すてる油リサイクルBOX 設置店舗
常温で液体の植物性油 例: サラダ油、ごま油、なたね油、 コーン油、紅花油、米油、大豆油、 ヒマワリ油、オリーブオイルなど <small>※常温で固形の油、事業用油などは回収できません。</small>	イオンフードスタイル ・鴨居店 ・三ツ境店 ・港南台店 <small>※2024年7月時点</small>

「すてる油で空を飛ぼう」プロジェクトでは、回収されたこのプロジェクトでは、店舗や自治体との交渉に加え、廃食油をためるボトルや回収BOXの製作にも注力しました。「油のためやすさや安全性を考えると、また本来の目的である脱炭素にこだわって、ボトルは繰り返し使える仕様で製作しました。店頭で参加費220円をお支払いいただく、回収ボトル1本とJALオリジナルステッカーをお受け取りいただけます」(安部)

横浜市緑区鴨居から始まったこの取り組みは、7月時点で横浜市内の3店舗まで拡大し、今後全国への展開を計画しています。

「まだほとんど活用されていない家庭内廃食油を集める取り組みを社会に根付かせることが、今回のプロジェクトの目的です。SAFを使う立場にある私たちの責務として、廃棄されている資源を循環させる仕組みを作り、資源循環の機運を高めていきたい。ご搭乗のお客様さまや市民の皆さまとつながり、皆さまの廃食油で空を飛ぶ飛行機をご覧いただくのが楽しみです！」と意気込む喜多。

JALグループはこれからも、地球への負荷を最小限にとどめるための工夫を、皆さまと共に考えてまいります。

R REPORT

JALが取り組む新しい空への挑戦を皆さまにお伝えします



お客さまと共に作る、持続可能な国産航空燃料 すてる油で空を飛ぼう!

揚げ油が 航空燃料に?

とうもろこし、ゴーヤー、枝豆に車海老——素揚げや天ぷらも美味しい夏の食材。けれど自宅で揚げ物をする、油のすて方に困りませんか? 資源として回収する自治体もありますが、多くは固めたり紙などに吸わせたり、さまざまな方法で処理されていると思います。そんな「すてる油」が、ご搭乗中の飛行機の燃料になるとしたら、どうでしょう?

JALは年間約10万tともいわれる日本の家庭で排出される廃食油に着目し、それを国産SAFの原料にできないかと考えました。SAFとは、Sustainable Aviation Fuel(持続可能な航空燃料)の略称で、循環型の原料で製造された航空燃料のことです。地中の原油を採掘・精製して作り出す従来の航空燃料に比べ、すでに地上にある植物などの有機性資源や、廃食油などから製造されるSAFは、そのライフサイクルにおいて約80%のCO₂排出削減効果があるといわれています。「航空業界と地球の未来を考えたとき、SAFの生産と確保は急務

廃食油の回収・リサイクルの流れ



*1 Used Cooking Oilの略称 *2 国内SAF製造プラントの完成まではバイオディーゼルに活用されます。

家庭の廃食油 どう集める?

「飲食店には廃食油の回収業者がいますが、家庭の廃食油はほぼすてられていました。ここを何とかしたいと、連携協定を結んでいる横浜市さまと家庭の廃食油を回収するトライアルを、今年3月から始めました。イオンフードスタイル鴨居店さまの協力も得て、6月からは、すてる油リサイクルBOXを店舗に常設し、本格回収を行っています」と語るのは、同部署の安部やよいです。

「すてる油で空を飛ぼう」と名付

です。各国がSAFの商用化に向けて準備を進める中、国内でも安定的にSAFを調達できる仕組み作りが大きな課題です」と語るのは、国産SAF推進タスクフォースの喜多敦^{きただあつし}。2030年度までに航空燃料の10%をSAFに置き換えるという目標に対し、SAFやSAF原料の国産比率を少しでも高め、脱炭素化を進めるため、手探りの取り組みが続いています。

